



国際リサイクル会議 JAPAN'06 for THE CAR

A global strategy for automobile recycling as venous industry



日 時：2006年5月8日(月) 1:00pm～5:00pm
会 場：ウ・タント国際会議場（国連大学3F）
主 催：内閣府認証NPO法人 RUMアライアンス



RUM Alliance
内閣府認証NPO法人：全国自動車リサイクル事業者連盟

<http://www.rum-alliance.com>



謹啓 陽春の候、御社におかれましては益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃は格別の御高配に預かり深く感謝いたしております。

さて、地球上には、約8億4千万台(2006年3月現在)もの自動車が存在していると言われています。またその数は毎年4~5千万台もの勢いで増え続けており、西暦2025年には、その大部分が廃車となり、そのままゴミと化し地球環境に大きな影響を与えることが想像できます。

自動車の発達で、私達は便利さや豊かさを享受してきた分、作り出した「負」の部分に責任を持つ、廃車を「ゴミ」にしてしまうのではなく、「資源」として蘇らせる事の必要性を深く考えております。

私たち内閣府認証NPO法人 RUMアライアンス(全国自動車リサイクル事業者連盟)の32社は、新たなる地球環境の改善を目指し、「もったい」が「ない」社会から「もったい」が「ある」資源循環型社会の実現に向けて、「競争から共生と協調への転換を先駆けて推進する」をコンセプトとして、昨年5月から1ヵ月間「愛・地球博」への出展を皮切りに、会員一丸となって日本から地球規模への運動を推進しようと取り組んできています。

そして本年5月8日(月)に国連大学ウ・タント国際会議場におきまして、今後大量に排出する使用済み自動車の世界規模でのリサイクル計画について、国連事務次長アンワルル・チョードリ大使、国連環境計画・前北米局長ノエル・ブラウン博士、国連環境計画・情報産業経済局長モニカ・バーバット氏、そして自動車関連会社の専門家の方々をお招きして、国連創設60周年記念シンポジウム「第1回 国際リサイクル会議 JAPAN'06 for THE CAR」を開催する運びとなりました。

別紙同封の企画書を御高覧いただき、この会議への御協力と御支援を賜れば幸いに存じます。

また、シンポジウム終了後、国連大学より歩いて5分の距離にあります「青山ダイヤモンドホール」にてレセプションを開催致します。特別ゲストには、世界で活躍するジャズバイオリニストの寺井尚子+カルテット演奏も御用意いたしておりますので、1部、2部と合わせて御出席いただけますよう慎んでお願い申し上げます。

敬白

平成18年4月吉日

NPO法人 RUMアライアンス
代表理事 近藤典彦



国際リサイクル会議 JAPAN '06 for THE CAR

A global strategy for automobile recycling as venous industry

日 時:2006年5月8日(月)1:00pm~5:00pm
会 場:ウ・タント国際会議場(国連大学3F) 東京都渋谷区神宮前5-53-70
主 催:内閣府認証NPO法人 RUMアライアンス
後 援:NGO国連の友(USA)、国際連合工業開発機関東京投資・技術移転促進事務所(UNIDO)
協 賛:(株)オートバックスセブン

12:00~ 受付開始

13:00~ 挨拶 平井奉文氏 (経済産業省 製造産業局 次長)

13:10~ 第1部 講演 (60分/10分2人、20分2人)

- Mr.ANWARUL K.CHOWDHURY (VTR出演/10分)
(UN Under-Secretary-General and High Representative for the Least Developed Countries, Landlocked Developing Countries and Small Island Developing States)
- Dr.NOEL. J. BROWN (前UNEP北米局長／国連の友 代表)
- Dr.MUSHTAQ AHMED MEMON(UNEP企画官/International Environmental Technology Center)
- Mr.RAY C. ANDERSON (インターフェイス社会長 兼 CEO) (VTR出演/10分)

14:10~ 第2部 基調報告 (20分)

「サステナビリティの科学的基礎に関する調査2006」

- 木内 孝氏 (NPO法人フューチャー500理事長／(株)イーススクエア会長)

14:30 休憩 (30分)

15:00~ 第3部 パネルディスカッション (110分)

「8億4000万台もの車はどこへ行くのか？地球規模での自動車リサイクルを考える」

●パネリスト

- Dr.NOEL. J. BROWN
- Dr.MUSHTAQ AHMED MEMON
- Dr.BASIL GF.SPRINGER (カリブ海ビジネス・エンタープライズ・トラスト代表)
- 住野公一氏 ((株)オートバックスセブン代表取締役社長CEO)
- 木内 孝氏
- 熊田正隆氏 (本田技研工業(株) リサイクル推進室 技術主幹)
- 近藤典彦氏 (NPO法人 RUMアライアンス代表理事)

●司会進行

- 真山勇一氏 (日本テレビ報道局キャスター)

●コメンテーター

- 鵜 謙一氏 (ウェールズ大学院環境プログラム教授)

16:50 終了

18:30~20:30 レセプション 会場:青山ダイヤモンドホール

- 特別ゲスト 寺井尚子カルテット
- 海外特別ゲスト Ms.BIANCA JAGGER (国際平和・環境活動家/ライト・ライブリーフッド賞受賞)



国際リサイクル会議 JAPAN '06 for THE CAR

A global strategy for automobile recycling as venous industry

1、共通の理念

「持続可能な発展」(Sustainable Development)は、1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された「国連環境開発会議」(United Nations Conference on Sustainable Development)において、ブルントラント委員会の最終報告「我ら共有の未来」(Our Common Future)の概念を具体化するものとして、世界に向けて発信されました。「我々現代世代の生活レベルを維持しながら、子や孫やさらに将来世代の豊かさの可能性を脅かさない」というメッセージは、世代間の奪い合いではなく「責任と協調」の理念から発せられたものです。この崇高な理念を実現するために、私たちは、消費者として、企業人として、そしてまた、先進国や途上国を問わず、地球人として行動しなければなりません。個人の生活におけるLOHAS(Life Style of Health and Sustainability)や企業における環境戦略経営、そして国における環境政策は、この共通の理念を前進させるものです。

2、自動車産業の未来

今日、自動車産業は先進国、途上国双方において最大の裾野をもつ産業です。1,5tの乗用車を生産するために、膨大な鉄鉱石や貴金属の採掘からはじまって、難分解性のゴムや化学合成物質などの素材を高度な技術によって集積させた、まさに人類の叡智の産物といえます。20世紀後半、自動車から排出されるNOxやSOxさらにはCO₂の削減のために、メーカーは不断の企業努力をもって環境性能を重視した車の生産を実践してきました。しかし、わが国において約7千5百万台、世界において約8億4千万台の車が走る今日、メーカーには究極のエコカーの研究開発と共に、この膨大な数の車の廃車処理についても責任を持たなくてはならない事態が到来しています。それは世界規模の生産に対応したグローバルな視点での対策となります。使用済み自動車が鉄とゴミの時代は終わりました。エンジンやバッテリーや様々な部品は、分別すればまだまだ使用可能なものが多くあります。純度を高めた鉄のリサイクルは鉄鉱石の採掘を削減します。ASR(シュレッダーダスト)などの難分解性物質も素材としてのリサイクル技術の研究開発が進んでいます。私たちは地殻から掘り出して生産し、使用済みとなったら燃やして埋め立てる産業から、部品の再使用や素材のリサイクルによって、大気への放出や埋め立てといった環境影響を限りなくゼロにする産業へと転換しなければなりません。私たちの身体に動脈と静脈があるように、産業にもモノを作る動脈部分とモノを分別解体する静脈部分があります。21世紀において、静脈産業(Venous Industry)が連結した産業循環を構築することが、持続可能な発展への大きなファクターです。自動車産業において、分別解体を担うリサイクル技術とメーカーの設計段階における解体性能の研究開発が連結されるならば、ゼロエミッションや環境成長経済へ大きく踏み出すことになります。2005年わが国において施行された「自動車リサイクル法」はこうした産業への転換を促進するものです。

3、RUM(Re-Use Motorization)アライアンス

RUMアライアンスは環境に対応した自動車リサイクル事業を営む企業によって2003年から活動を開始し、2004年12月内閣府認定NPO法人として様々な社会貢献をしてきました。2005年5月、「自然の叡智」をテーマに開催された「愛地球博」において、一ヶ月に亘るリサイクル部品の出展やメーカー・ユーザー・知識人を交えた「自動車リサイクルシンポジューム」などを主催しました。今回の「国際リサイクル会議」はこれまでの活動をグローバルな規模に拡大するものです。私たちは「もったいない」を共通の価値観として、使用済み自動車から徹底して再使用、リサイクル部品を取り出し、ASRの限りなきゼロを目指してリサイクル技術の向上を図ってきました。こうした視点に立つと、使用済み自動車はゴミではなく「宝の山」となります。「使用済み自動車とは何か」といった議論を踏まえ、新たな定義を確立し、技術やシステムの認定制度を構築し、透明性のある事業展開を目指すものです。

4、UNEP参加の国際会議

本年は国際連合創立60周年の節目の年に当ります。UNEP(United Nations Environment Programme)国連環境計画は、1972年6月ストックホルムにおいて、「かけがえのない地球」を提唱して開催された「国連人間環境会議」において採択された「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の理念を実現する機関として設立されました。これまで、オゾン層保護、気候変動、有害廃棄物、海洋環境保護、水質保全、土壤劣化防止、森林問題等多岐に亘る地球環境問題に取り組んできました。この度使用済み自動車の適正処理及びリサイクルといった21世紀における地球規模の環境問題に対し、先見的に議論する場を持つことが出来ることは、自動車先進国日本にとって大変有意義なことです。この企画に、Mr. Anwarul K. Chowdhury国連事務局事務次長兼開発途上国上級代表、Dr. Noel J Brown前UNEP北米局長/国連の友代表、MS. Monique Barbut UNEP情報・産業・経済局長の三氏をお招きして、講演とパネルディスカッションのオブザーバー参加の機会を得ることが出来たことは、真に光栄であります。この国際会議において、メーカーの環境経営戦略、リサイクル事業者の環境技術対応、政府の環境政策および自動車リサイクル法の意義を日本から世界に発信することが出来れば、物質文明を起源とする地球環境問題の解決に確かな方向性を示すものになると確信致します。



国際リサイクル会議 JAPAN '06 for THE CAR

A global strategy for automobile recycling as venous industry



車が木になる

使用済み自動車には、鉄やアルミや様々な宝が埋まっています。座席シートは、ウレタン、繊維、金属、プラスチックの合成品で、難リサイクル部品ですが、破碎してゴミにするには「もったいない」モノが10台に1台ぐらいの割合で出てきます。これをきれいに洗浄し、オフィスチェアや座椅子に再生することが出来れば、埋め立てゴミの削減と新たな経済価値の創造という一石二鳥の社会貢献に成ります。クッションが厚く、長時間の運転にも疲れにくいように設計されたトレジャーチェア販売による収益の一部がマータイ女史のグリーンベルト運動に寄付されれば、ぐるりと地球を巡って「車が木になります。植林された木は成長を続ける限り、使用時に車から排出されたCO₂を吸収し、ライフサイクル全体としてはカーボンニュートラルを達成することが出来ます。こうして「車が木になる」地球規模の循環サイクルが出来ます。

車社会という森を鳥のように空から俯瞰し、「もったいない」のコンセプトがワンガリ・マータイ女史のグリーンベルト運動とリンクしたとき、「車が木になる」プロジェクトが動き出します。

温室効果ガス排出量(CO₂)削減の取り組み

RUMアライアンス参加・正会員30社では、ISO14001を認証取得し、全社員が環境保全の重要性を認識し、省エネやゴミの削減に取り組んできました。この度、環境省が進める「自主参加型国内排出量取引制度」参加する目的で、2005年度各社における電気、ガソリン、軽油、LPGガス、水道などの使用量から、CO₂排出量の算定を行いました。

自主参加型国内排出量取引制度とは、温室効果ガスを費用効率的かつ確実に削減するとともに、国内排出量取引制度に関する知見・経験の蓄積を目的として、平成17年度から開始したものです。今回は同制度の第2期事業として、温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者に対し、一定量の排出削減と引き換えに、省エネルギー、石油代替エネルギーによるCO₂排出抑制設備の整備に対する補助金を交付することにより支援するとともに、排出削減約束達成のために排出枠の取引という京都議定書に規定された柔軟性措置の活用も可能にするという制度です。

既に、EUでは英国の制度を基にCO₂排出権取引市場が立ち上がり、今後国際間の取引が活発化するものと予測されます。CO₂排出取引は関連企業間での直接取引を通して、環境ビジネスの新たな分野に成長するものと思われます。



正会員

役職	会員名	活動拠点	所在地
代表理事	近藤 典彦	会宝産業株式会社	石川県金沢市東蚊爪町1丁目25番地
副代表理事	森 剛	株式会社オートセンター・モリエコワールド事業部	三重県伊賀市東湯舟2750番地副代表理事
副代表理事	久保田 茂	株式会社久保田オートパーツ	宮崎県宮崎市細江字板川4231番
副代表理事	池本 篤	株式会社ナプロフクシマ	福島県双葉郡浪江町大字高瀬字小高瀬迫189番地の2
副代表理事	野坂 信嘉	日本工コカ工業株式会社	福井県坂井市三国町新保97字港20番地
理事	小泉 善実	株式会社啓愛社	東京都北区岩淵町38番23号
理事	金城 正信	愛媛オートリサイクル(金城産業株式会社)	愛媛県松山市北吉田町349-1
理事	中里 明光	株式会社エコブリッジ	青森県八戸市沼館1丁目15番12号
理事	永田 則男	株式会社永田プロダクツ	山形県酒田市東町1丁目24番16号
理事	佐田山有史	有限会社大成商事	鳥取県米子市夜見町3088番地
監事	加藤 博巳	株式会社ウイン	愛知県岡崎市矢作町出口41番地
理事	近松 利浩	有限会社近松商会	岐阜県岐阜市北野東811
理事	高橋 英樹	株式会社アイエス総合	宮城県登米市迫町佐沼字散田56番地1
理事	巖 昭仁	株式会社ピーエスアイコーポレーション	京都府八幡市八幡五反田20-1
理事	栗原 裕之	有限会社昭和メタル	埼玉県越谷市大字増森244番地3
理事	多久島秀敏	株式会社パーツライン	長崎県佐世保市大塔町1245番地
理事	横山 良憲	スズキ中国販売株式会社	広島県尾道市高須町838-1
理事	沼崎 誠公	有限会社三陸パーツセンター	岩手県下閉伊郡山田町織笠15-20-1
理事	石上 剛	石上車輌株式会社	北海道札幌市豊平区月寒東二条10-4-17
理事	水口 邦雄	株式会社タイヨー自動車	北海道函館市西桔梗555-9
理事	伊地知志郎	株式会社オートパーツ伊地知	鹿児島県鹿児島市上福元町7316番地
理事	畠山 敏美	カイテン株式会社	秋田県秋田市寺内字大小路207-79
理事	中島 紀晃	有限会社オートリサイクルナカシマ福岡	福岡県筑紫野市大字山家4073-32
理事	高橋 宏壽	オートパルス・ニホウ	大分県宇佐市上高700番地
理事	四之宮英一	株式会社オートパーツ幸城	山口県宇部市大字妻崎開作776-3
理事	吉岡 武司	有限会社吉岡商店	和歌山県那賀郡岩出町岡田575-1
	井原 俊尚	有限会社みうら	高知県高知市南ノ丸町44-1
	寺田 博正	テラダパーツ・イイダ(株式会社テラダパーツ)	長野県下伊那郡松川町生田823番地5
	宮田 康雄	株式会社萬屋	新潟県柏崎市大字大河内新田263番地1
	増田 嘉久	株式会社 茨城オートパーツセンター	茨城県東茨城郡美野里町大字堅倉634
顧問	鶴 謙一	環境総合研究所	石川県金沢市三十石町2-3
事務局長	岡本 浩	RUMアライアンス事務局	東京都中央区銀座6-6-1-3F

サポート会員	株式会社東部環境	宮城県東松島市大曲字南浜1番地4
サポート会員	株式会社アルティア橋本・機工営業部	神奈川県川崎市幸区堀川町580番地



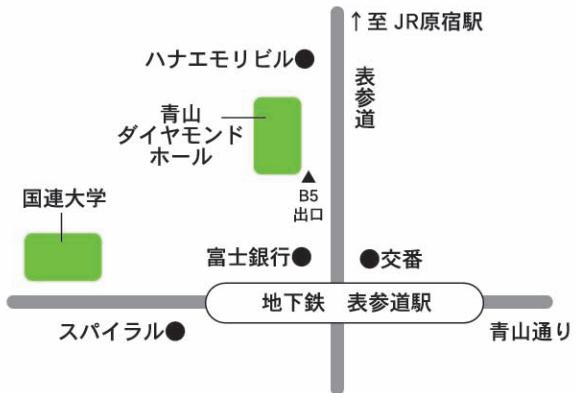
INFORMATION

●第一部● シンポジウム

日 時:2006年5月8日(月) 午後1時~5時

会 場:国際連合大学 ウ・タント国際会議場
東京都渋谷区神宮前5丁目53-70

参加費:10,000円(御一人様)



●第二部● レセプション

日 時:2006年5月8日(月) 午後6時30分~8時30分

会 場:青山ダイヤモンドホール・B1「サファイヤルーム」
東京都港区北青山3-6-8 TEL.03-5467-2111

参加費:20,000円(御一人様)

特別ゲスト:寺井尚子+カルテット

●青山ダイヤモンドホール
地下鉄銀座線・千代田線・半蔵門線
表参道駅B5出口直結

■参加費は下記口座までお振込をお願い致します。
三井住友銀行 神田支店 普通口座 2115046
口座名義 トクティヒエイリカツドウホウジン
アールユーエムアライアンス

お問い合わせ
RUMアライアンス事務局
TEL.03-6215-8703/携帯.090-8476-0771(岡本)
NPO:National Alliance of Motor Vehicle Recycling Companies
Ginza Fugetsudo Bldg.3F,6-6-1 Ginza,Chuo-ku,Tokyo,Japan/Phone.03-6215-8703/Fax.03-6215-8700/E-mail:secretariat@rum-alliance.com http://www.rum-alliance.com

※誠に恐れ入りますが準備の都合上、4/28(金)までにご返信をお願い致します。

参加申込書

RUMアライアンス事務局行 FAX送信先 03-6215-8700

ご参加される枠に○をつけてください。

御芳名	会社・団体名	御連絡先(住所・TEL)	シンポジウム	レセプション



Mr. Anwarul K. Chowdhury

アンワルル・カリム・チョードリ

UN Under-Secretary-General and High Representative
for the Least Developed Countries,
Landlocked Developing Countries and
Small Island Developing States

現 国連事務次長。開発途上国ならびに内陸開発途上国、
スモールアイランド開発局代表。

1943年バングラディシュ、ダッカ生まれ。1967年外交官となる。ダッカ大学で、現代史と国際関係の修士号を取得。彼はまた平和と発展、そして人権に関する機関紙の定期的寄稿者でもあり、学術機関や公開討論では演説もしている。アメリカの Seton Hall大学学校の外交学部非常勤講師でもあった。

1990年から1993年までは、日本、オーストラリア、ニュージーランドのユニセフ理事長。
1997～1998年に国連総会第5委員会(行政と財政)の議長を歴任。さらに、1997年と1998年に
国連経済社会理事会の副議長も務める。

常任委員としての在職期間中、安全保障理事会の議長、ユニセフ執行理事会の議長、ニューヨークにて開発途上国のためのコーディネーターとしても10年以上勤務。

2001年5月、第3回国連開発途上国会議にて開発途上国代表として会議を先導し、以降10年間の包括的なブリュッセル行動計画を採決した。

2002年3月、事務局長兼、開発途上国ならびにスモールアイランド開発局代表を国連事務総長より任命される。2003年12月、そのスモールアイランド開発途上国の環境維持開発を計画したバルバドス行動計画の10年目に際し、執行プランを見直すための国際会議の議長に指名される。会議は2005年1月10日～14日にモーリシャスで開催された。

平和と文化の功労者として、ウ・タント平和賞とユネスコガンジー金賞の受賞者もあり、現在 Teaching About UN (CTAUN) のニューヨーク名誉顧問です。



Dr.Noel J. Brown

ノエル・ブラウン

前国連環境計画北米局長

シアトル大学政治経済学博士取得

ジョージタウン大学国際法と組織学修士取得

エール大学国際関係学博士取得

ヘーベー国際法学院国際法学博士取得

1992年、リオで開催された歴史的な地球サミットを含め、環境及び開発問題、国際関係法に関する主要な国際会議及び交渉など、過去20年以上にわたり国連環境計画の代表として尽力した。数多くの地球環境保護と開発の持続活動に積極的に取組む。アスペン地球変化学会:Aspen Global Change Institute、地域環境戦略のための国際審議会:The International Council for Local Environmental Initiatives、国際固有開発:Indigenous Development International の創設者の一人である。

現在、国連の代理として公衆支援を動員し、主要計画およびその達成に社会の関心を向けさせ国連目標の推進に務める非政治団体「国連の友」:Friends of the United Nations代表。さらに芸術と科学の世界アカデミー:World Academy of Arts and Sciencesの正会員、観光を通じて平和を考える国際学会:International Institute for Peace through Tourism議長、人類環境のためのRene Dubosセンター:Rene Dubos Center for Human Environments議長を務める。米国及び諸外国の大学の客員教授として、国際法および組織学、政府と政治、環境管理に関し教鞭をとる。ブリティッシュ・コロンビア州・ビクトリア大学では著名な講演者であり、オーストラリアの若者に対するエリザベス女王信仰の参同者でもある。

1996年デンヴァー大学レオブロックの教授となり、現在ではカナダ、ノヴァスコティア、ハリファックスの国際海洋研究所訓練局長も務める。また、気象研究所、地球コミュニケーション事務局、熱帯雨林同盟、MUSE、映画及びテレビ、資源管理センター、国際化教育協会、アメリカ人への信頼、国際化リーダーシップ開発協会、平和のための根、国際海上警備員団体、Trimbuktu財団、ジャマイカ国定公園信託基金の役員を兼任。世界中を駆け巡りコンサルタント及び講演を精力的に行う他、数多くの著書を出版。子供の国際平和活動を通じて若者団体を支持および激励するため協議書:Agenda 21(継続的発展ための地球サミット計画)のスタイル及び言語の修正は若者世代にとって有意義なものとなつた他、その内容を記した『救出作戦』(Rescue Mission)は環境に興味を示す若者コミュニティーの間でベストセラーとなる。

環境危機の倫理的局面について努力を重ね、国連に対し環境休息計画を提起、現在では国際環境の日に関連し世界中から多くの賛辞を受けている。また、環境への貢献により、これまで数多くの賞を受賞:ライオンズ・クラブ賞、国連の友賞、ガイア賞、地球保護の顕著な功績に与えられる国際化教育協会賞、1998年には多大な社会貢献に対し芸術と科学の世界アカデミー賞受賞。環境持続力及び地球生命力に関してもっとも優れたチャンピオンの一人と言える。過去30年にわたり、あらゆる分野の中で人間の努力によって環境運動を促進させるための多くの活動を先導している。



Ms. Monique Barbut

モニカ・バーバッド

UNEP Division of Technology,
Industry and Economics

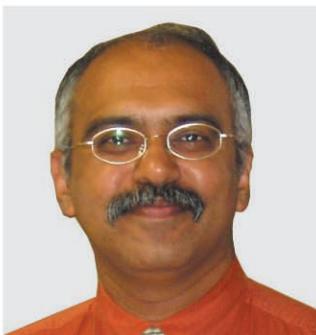
国連環境計画(UNEP)情報・産業・経済局長

2004年1月に国連環境計画(UNEP)の情報・産業・経済局長に任命される以前は、フランスの海外部門及びフランス領の運営を担当。またそれと同時に、フランスの支援プロジェクトのための主要実行局であるフランス開発グループ庁(AFD)のカリブ海、太平洋およびインド洋全活動のエグゼクティブ・ディレクターとしても活躍。

フランスの経済開発銀行、中央経済協力において長期的かつ多様の実績を構築した後、豊富な経験を生かし、国際的な財務開発のシステムをAFDとUNEPに持ち込みました。

インド洋諸島の再生を皮切りに海外のフランス領や中央の財務活動プロジェクトを指揮し、その活動は大きな評価を得た。

1990年代にはフランス政府及び多くの国際的財務発展の問題に関し徐々に携わるようになった。フランス政府代表団の一員として、1992年にリオデジャネイロで開催された地球サミット融資交渉のキーパーソンとして活躍し、地球環境機関(GEF)の設立においても大きな役割を果たす。またフランスのGEFの初代最高責任者であり、UNEPの常任理事であるクラウス・トッパー氏は「彼女は当組織業務の中で重要な地域をリードする人物である」と言及している。



Dr. Mushtaq Ahmed Memon

ムシュタク・アハマド・メモン

UNEP International Environmental Technology Centre
Programme Officer

メモン博士は国連の友と協力関係のある日本国際環境技術センターで企画官として勤務。環境経営に関する国際任務歴15年以上のキャリアを持つ。現在彼が注目していることはリサイクルを通じて、また自然エネルギーの開発により資源の増加を行うこと。広島大学で環境経済及び経営の博士号を取得、イギリス国際開発のためのブラッドフォードセンターにおいて計画経営及び国際発展の修士号を取得、パキスタンにて輸送および工学技術の学位を取得。国連の友に勤務する以前は、国連開発計画と世界銀行計画が共同で行うパキスタン農業用水供給及び衛生プロジェクトに関する人材資源、および訓練プロジェクトの責任者を勤める傍ら、日本の地球環境戦略研究機構で上級政策調査官としても勤務。

Dr.BASIL GF.SPRINGER バジル G.F.スプリンガー

カリブ海ビジネス・エンタープライズ・トラスト代表

バルバドス人の数学者、統計学およびオペレーション・リサーチ科学者。

1968年～1977年にかけて、トリニダードの西インド諸島大学農業学部、カリブ海コミュニティー事務局、食品及び農業団体、カリブ海農業調査及び開発機構において生物測定学者としてその経験を積む。バルバドスにおけるコンサルタント管理の先駆者であり、1977年にシステム・カリビアンLTD.を設立し、2000年に売却されるまで、カリブ海最大のビジネス開発コンサルタント企業として君臨。この間、農業開発や他のカリブ海経済の企業と関連付ける観光産業の企画経営に力を注いだ。

カリブ海開発銀行(1998年～2001年)の顧問であった頃、「日没」産業と呼ばれていた砂糖及びバナナ産業を「夜明け」産業へとカリブ海の経済を転換し、産業の多様化を目指すためのイニシアティブが取れる会社の設立を目指した。その結果、現在その核をなすコンサルタント会社として民間企業によってリードされるカリブ海ビジネス・エンタープライズ・トラストINCが設立された。

CBETは最近その立場を変え、「The CBET Shepherding Model.1」の促進に力を注いでいる。このパートナーは、持続的ビジネスの成功を概念とする企業家または組織。CBETは持続的ビジネスの成功のために必要かつ十分に能力を有した7つのビジネス形態によってその内容は特徴付けられている。現在設立から5年を迎え、セント・ルシカに所在。CBETはサトウキビ、木綿、農業産業、自然エネルギー、レクリエーション、メディア、種子技術、映画産業などの分野のために多くのビジネス計画を開拓してきた。現在流通ルートにのっている幾つかのプロジェクトはCBETがshepherding model(羊飼いのように先導をするという援助モデル)を通じて最終的に実行に向けて支援を提供することになるでしょう。CBET手法が有効的な手法であると立証された現在、博士は、起業家がビジネス構想から持続的ビジネスの成功への旅に乗り出すように、経済を刺激し、貧困を減少させるような起業チャンスおよび経営訓練と適切な財政手段を模索する狭間で、有効かつ、最適な条件を有するパートナーシップによって特徴付けられる、起業開発形態へとCBETを導いている。

持続可能な社会的経済開発論に必要不可欠な条件は、人間要因、及び社会的文化特徴を具体化するものだとする、地域、国家、企業レベルでのスマート・パートナーシップ哲学を提唱している。

博士は1981年～1984年、バルバドス農業マーケティング・コーポレーション会長、1996年～2001年、バルバドス国家生産力評議会会長、1994年～2003年、バルバドス国家銀行副会長および公共、民間企業委員会のメンバーを歴任。バルバドスがん協会の創始者兼代表者として1996年～2001年までその実力を遺憾なく發揮。現在でも彼はその協会の名誉収入役として留任。1993年以降週間新聞のレギュラーコラムニストとして活躍し、ロータリークラブの会員でもある。カウンターパート・カリビアン、慈善信託の会長及び、カウンターパート・インターナショナルの持続的発展ファミリーのメンバー。カウンターパート・カリビアンはある一定期間までに完全な教育機関かつ継続可能なリクリエーション環境全体論(肉体的、経済的、社会的、文化的)を育成する機関として開発している「The future Center」の途中段階のプロセス機関です。2000年の独立名誉者として博士はゴールド・クラウン・オブ・メリット(GCM)の勲章をバルバドスより授与された。

Mr.RAY C. ANDERSON レイC.アンダーソン

インターフェイス社長/CEO

インターフェイス社は、彼が立ち上げた会社で、世界最大の商業用カーペットの会社である。近年廃棄物に対する世界規模の戦いを先導し、持続可能な発展のプロセスを切り拓くことによって、インターフェイスを持続可能な企業にするというミッションに乗り出している。この大儀に対して、アンダーソンの情熱を導いている基本理念は、それは行うべき正しいことであるばかりではなく、賢明なことでもある、ということだ。1997年、大統領の持続可能な開発委員会の共同委員長に任命された。この委員会はホワイトハウスに対して環境政策に関するアドバイスをするものである。1996年グローバル・グリーンから第一回ミレニアム賞を授与され、アーネスト・ヤングに南東地域での「今年のアントレプレナー」に選ばれた。ジョージア技術工科大学卒業。アトランタ在住。



住野公一 Koichi Sumino

株式会社オートバックスセブン代表取締役CEO(最高経営責任者)

1948年、大阪府生まれ。大阪教育大学附属高等学校を経て、1970(昭和45)年立命館大学経済学部卒業。株式会社オートバックスセブンの前身である大豊産業株式会社に入社。

貿易部で1年間経験を積んだ後、休職して慶應義塾大学のビジネススクールへ進学。その後、欧米での営業活動を経験。帰国後の1974年、自動車用品の販売と取付・整備を一体化した新しい営業形態を特徴とするカー用品チェーン「オートバックス」の1号店を大東市に開店。国内の自動車部品・用品店をフランチャイズ化して現在、国内最大手のオートバックス王国を築き上げた。すでに海外戦略にも取り組み、アジアを中心に出店展開中。

木内 孝 Takashi Kiuchi

NPO法人・フューチャー500理事長、イースクエア会長

1935年ドイツ・ハンブルグ生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。三菱電機株式会社入社後、ブリティッシュ・コロンビア大学留学、経済学修士。1988年米国三菱電機会長、93年取締役、95年常務取締役、99年三菱電機顧問。92年外務大臣賞、95年日米協会国際市民賞、数々の団体の役員を務める。著書に「ニューエコノミー」、「新学問のすすめ」など。

近藤典彦 Norihiko Kondo

NPO法人・RUMアライアンス代表理事、会宝産業株式会社代表取締役社長

1947年、石川県生まれ。実践商業高等学校卒業。69年、有限会社近藤自動車商会を創業。92年に『会宝産業株式会社』に社名変更。廃車となった自動車や建設機械、農業機械などの収集運搬・解体事業を中心に、中古車両の販売やパーツ類のリサイクルへと業務範囲を拡大。02年にはISO14001を認証取得。05年ISO9001を認証取得。石川県ニッチトップ企業に選定される。海外48カ国と取引中。現在、「クルマが木になる」を執筆中。

鵜 謙一 Kenichi Tsugumi

英國国立ウェールズ大学院環境プログラム教授、NPO法人・フューチャー500北陸代表
石川県生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒業金沢大学大学院経済学研究科修士課程修了。1997年地球温暖化防止石川連絡会代表。1997年国連温暖化防止京都会議(COP3)参加。1999年~2004年金沢エコステージ研究会代表。2005年「自動車リサイクルシンポジウム」(愛地球博)企画。2005~06年マニラ市立大学にて「一般廃棄物処理システム研究会」主催。1992年リオデジャネイロで開催された「国連環境開発会議」(UNCED)で、「Friends of the Earth」(FoE)の一員として参加。1998年より北陸大学で環境倫理学、2000年より英國ウェールズ大学大学院日本校で環境マネジメントシステムを教える。





真山 勇一

Yuichi Mayama

生年月日：昭和19年（1944）1月8日
出身地：東京都
入社年月：昭和43年（1968）4月
血液型：B型
星座：山羊座
最終学歴：東京教育大学（現筑波大）
専攻：ドイツ語学ドイツ文学

●入社後の経歴&取材歴

1968年 報道局報道部配属
遊軍、警視庁、自治省、通産省各クラブ担当、
選挙特番、朝のニュースワイド
1979年 外報部へ、イラン・イラク戦争取材でテヘラン駐在
1983年 ニューヨーク特派員（～1987年）
1988年4月 「NNNきょうの出来事」キャスター
1990年4月 おもいッきりテレビ「情報特急便」キャスター

●現在の担当番組

1992年 10月より「NNNニュースプラス1」キャスター
報道特別番組

●趣味 旅行、音楽鑑賞、スキー、テニス、ゴルフ

●信条・モットー 「自然体」 ニュースは「現場主義」

●現在の関心事 教育・環境をめぐる問題

●番組で感動した体験

イラン・イラク戦争での戦線取材およびイラン革命体験 日々伝えるニュースに対して
視聴者から反応が届いた時



寺井尚子

Naoko Terai

ジャンル：ジャズ・バイオリニスト
出身地：神奈川県

- 4歳よりヴァイオリンを始め、6歳でNHK教育テレビ「ヴァイオリンのおけいこ」に出演。
- 12歳の時、毎日新聞社主催「学生音楽コンクール東日本大会」で奨励賞受賞。
14歳で再度受賞。
- 86年、ジャズ・ヴァイオリニストとしてプロ・デビュー。
- 95年、来日中だったケニー・バロン(米有名ジャズ・ピアニスト)と共に演したことから、彼のアルバムにゲストとして招かれ、NYで初レコーディング。
- 98年、初リーダー作「シンキング・オブ・ユー」発表。瞬く間にジャズ界のヒロインとして注目を浴びる。
- 00年1月、スイングジャーナル誌主催ジャズ・ディスク大賞「ニュー・スター賞」受賞。
9月、コンテンポラリー・ジャズ界のスーパー・ギタリスト、リー・リトナーのプロデュースでアルバム「プリンセスT」発表。
10月より3年間毎日放送で本人がパーソナリティーを務めるラジオ番組「寺井尚子のThinking of you」が放送される。
- 01年12月、フランスの世界的アコーディオン奏者リシャール・ガリアーノと共に演したアルバム「オール・フォー・ユー」を発表。
- 02年4月、リシャール・ガリアーノの招きにより、フランス・ルマンで開催された「ジャンゴ・ドール」で彼と共に演する。
8月、「東京JAZZ2002」参加(翌年も連続出演)。ハービー・ハンコック、ウェイン・ショーター、マイケル・ブレッカーラと共に演。
- 03年2月、東芝EMI移籍第1弾「アンセム」発表。大ベストセラーとなり、日本ゴールドディスク大賞<JAZZ ALBUM OF THE YEAR(国内部門)>を受賞。
10月、F1グランプリ開会式で<君が代>演奏。
12月、移籍第2弾「ジャズ・ワルツ」発表。このアルバムはスイングジャーナル誌主催ジャズ・ディスク大賞「日本ジャズ賞」を受賞。
- 04年4月、スイングジャーナル誌読者人気投票において<JAZZMAN OF THE YEAR>、<ALBUM OF THE YEAR><MISC. INSTRUMENTS/他の楽器—5年連続>の3部門を受賞。名実共に、ジャズ界のNo.1アーティストになる。
この年より、キンチョウ蚊取り線香TVCのキャラクターを勤める。
- 05年1月、「ドリームダンシング」発売。日本各地でますますライブ活動が盛んになる。
- 06年2月、最新作「夜間飛行」をリリース。